

令和 6 年度 厚生文教常任委員会行政視察報告書

視察テーマ 『学力向上の取り組みについて』

日時 10月15日 13時00分～14時30分

訪問先 秋田県由利本荘市西目総合支所

参加者 由利本荘市教育長 秋山 正毅
教育次長 熊谷 信幸
学校教育課長 倉田 和人
学校教育課指導主事 小番 誠
学校教育課指導主事 安倍 正
CS 協働コーディネータ 板垣 一恵

厚生文教常任委員会委員長 加来 喬 副委員長 工藤 壮一郎
委員 渡辺 雄爾 岩尾 育郎 二宮 健太郎 阿部 素也
議会事務局 河野 泰

添付 別紙資料 別添写真

背景 由利本荘市は平成 17 年に、本荘市、矢島町、岩城町、由利町、大内町、東由利町、西目町、鳥海町の 1 市 7 町が合併し誕生した。秋田県の南西部に位置し、北は秋田市、南はにかほ市、山形県酒田市・遊佐町・真室川町、東は大仙市・横手市・羽後町・湯沢市に接し、県都秋田市には 20km～60km の県内にある。南に標高 2、236m の秀峰鳥海山、東に出羽丘陵を背し、中央を一級河川子吉川が貫流して日本海に注ぎ、鳥海山と出羽丘陵に接する山間地帯、子吉川流域地帯、日本海に面した海岸平野地帯の 3 地帯から構成されている。面積は 1,209.59km²。人口は令和 6 年 3 月 31 日現在 71,285 人。議員定数は 22 名。

施策内容 由利本荘市の学校教育について

1. コミュニティ・スクールの取り組みについて

学校・家庭・地域の協働のため CS が必要
市の未来を託せる人材の育成

① 地域の良さに気づく子供

② 地域の課題に目を向ける子供

③ 地域の未来を考える子供

(地域の文化を学ぶ、体験学習の推進、地域資源の活用、教育環境の充実)

取り組み内容

① C S 協働コーディネーターの配置

行政、学校、地域の架け橋役

② 市C S連絡協議会の開催と地域運営協議会の設置

③ 地域ぐるみで学校を支援する体制を整備

地域コーディネーターの配置(放課後支援、授業支援等)

④ 学校・地域・行政が連携した学習プログラムの展開

学ぶん・チャレンジ・プログラムツアーの実施

中学生と管内企業のふれあいPR事業の活用

⑤ 積極的な広報活動

成果

① 学校・家庭・地域の情報共有(学習・生活面等)と組織的な学校運営

② 住民のボランティア意識の向上と地域人材の活用

(クラブ活動・実技教科・総合的な学習の時間・行事等)

③ 郷土の自然・伝統芸能等の豊かな体験

④ 小中学生の地域活動への参加

⑤ 管理職の異動に関わらない継続的な学校運営

課題

① 学校運営協議会委員、ボランティア等の世代交代に伴う人材確保

② 学校力を活かした地域づくりの更なる推進

③ 持続可能なCSの在り方の検討

2.学力向上へ向けた取り組み

① 教員2～3名による採点委員会の設置

② 単元評価問題等を活用した授業改善

③ 授業スタイルの構築による授業改善と指導の充実

④ ノートを効果的に活用した授業づくりと家庭学習

⑤ 一人勉強ノートによる家庭学習の推進

⑥ 中学生アカデミーや科学フェスティバルの開催

3.不登校及びいじめ問題等への対応

① 学校生活アンケートの実施

② 市いじめ問題対策連絡協議会の実施

③ 教育支援センターによる多面的な支援(本荘ふれあい教室)

成果

- ① 学校生活について話し合う機会
- ② 関係機関との情報共有・協働
- ③ 不登校児童生徒の居場所づくり

課題

- ① 学校と家庭との連携の強化
- ② 不登校児童生徒の支援体制の拡充

質疑応答

Q 統合問題はどうか?

A 少子化が進む中、なるべく統合を目指している。

Q CS の取り組み実態は?

A 駅伝大会は平日、学校行事として行っている。地域の祭りについては休日に全校児童参加を促している。

Q 教育支援センターの運営母体は?

A 子供の居場所という位置づけで市が設置している。全体で不登校の児童生徒は100名程度でうち20名程度が支援センターに来ている。

Q 「ひとべん」とは?

A 「一人勉強ノート」自主学习ノートのことで、家庭の協力を得ながら、低学年から自主学习を教師とともに習慣づけをしている。

所見

由利本荘市の学校教育基本目標は「人間性豊かで進取の気性に富む、たくましい子供の育成」というスローガンを掲げ、基本理念としてふるさと教育に根差したキャリア教育を理念とし、学校・保護者・地域が協働で高まるCSの推進と子供に寄り添い、支え、つなぐことを理念とした教育・人材育成を目指している。CSの取り組み、学力向上施策、不登校およびいじめ問題への対応等様々な教育課題に取り組んでいる。特にCSでは地域コーディネーターやCS協働コーディネーターを配置し、地域ぐるみで学校を支援する体制が整っている。学力向上では教師による板書の工夫等の授業スタイルの改善や一人勉強ノートによる家庭学習の推進に力を入れている。

杵築市は教育立市プランを策定し、「ひとが育ち、輝くまちづくり」を謳い、人と学び、人と生き、人が育つ杵築の教育を想像する。また、家庭、学校、地域が連携し、地域の宝として子供たちを育てるとしている。秋田県は以前から学力向上の先

進地であり、教育県としての土壌が根付いている。当市も一朝一夕で変わることはないが、一歩ずつ地道に家庭・学校・地域が連携し、市民一丸となって取組み改善していくことが必要だと感じる。